

「全鍍連」 2017年 8月号 巻頭言

全鍍連副会長 池田 伸一 (三和鍍金工業(株) 代表取締役)

大阪万博「夢よ もう一度」



私が担当する経営委員会では、先輩経営者と次の時代を担う経営者との意見交換会の推進と女性経営者間の交流会の推進を行っています。今回御世話になりますが、よろしくお願い致します。

さて大阪市では、国・府・経済界などとともに、2025年に大阪ベイエリア(湾岸部)の「夢洲ユメシマ」を舞台とする国際博覧会の開催を目指しています。政府は、4月24日正式に立候補申請を行いました。

1970年(昭和45年)大阪万博は「人類の進歩と調和」をテーマに、77カ国が参加し、戦後、高度経済成長を成し遂げてアメリカに次ぐ経済大国となった日本の象徴な意義を持つイベントとして開催されました。日本においては1964年東京オリンピック以来の国家プロジェクトでありました。テーマ館の太陽の塔やアメリカ館、ソ連館などの、人気パビリオンでは数時間待ちの行列ができるなどとして大変混雑しました。特にアポロ12号が持ち帰った「月の石」を展示したアメリカ館の行列は延々と続きました。

私事ですが、1964年(昭和39年)東京オリンピックの時は小学6年生で、家や学校で白黒テレビ観戦だけでしたが、1970年(昭和45年)大阪万博は、高校3年生の年で、受験勉強しなくてはならない時に、何と10回も万博に通いました。万博会場でそれまで、人生で経験した事のない見る物、聞く物、海外のフードの臭い…どれも初めての強烈な印象を受けました。77カ国もの外国の人を見るのも初めて、公式ガイドブックを持って、各パビリオンで記念スタンプを押してもらい、そのスタンプは、シャチハタゴム印が初めて試用されたものです。万博の好奇心がその後、海外へどうしても行ってみたい願望に繋がり、海外旅行好きになりました。

パビリオン見学中、今上天皇陛下、皇后様、当時、皇太子御夫婦が来られていて、間近で御見掛けした事もあり、良い思い出です。また、大阪万博がきっかけで、現在社会で使用され、広まった意外なモノを列記すると、アメリカ館のエアドームはその後、東京ドームの屋根となり、動く歩道、ガス館の温水洗浄便座、ワイヤレスフォンは現在の携帯電話に…、そして私が一番感激し好きだったのがみどり館のアストロラマで360度全天周スクリーン映像でした。その他、テレビ電話や電話時計等々。飲食では牛乳ビンから缶コーヒー、はじめてのファーストフードとしてケンタッキーフライドチキンやマクドナルドハンバーガー、そして日本発見えはファミリーレストランのロイヤルホストがありました。これら現在全て当たり前のモノとなっています。

日本が誇る最新技術を活用した万博開催は、産業の技術革新をもたらし、その経済効果は大阪のみならず、関西全

域に波及することが期待されます。また、大阪や関西の魅力を全世界に発信する絶好の機会ともなり、多くの観光客も訪れることから、私達の町、大阪に大きく貢献します。ただ、2025年の国際博覧会(万博)の候補地が出揃い、大阪開催を目指す日本は、フランス、ロシア、アゼルバイジャンの計3カ国と招致を競います。開催地の決定を来年11月に控え、日本は戦い方の工夫が求められます。

末筆になりますが、大阪府鍍金工業組合は、今年10月21日(土)午後、組合創立100周年記念式典をホテルニューオータニ大阪で開催します。どうぞよろしくお願い申し上げます。